

ふくおか

一般社団法人 福岡県学校歯科医会

県学歯

2019.1 No.92



北九州市小倉北区ときわばし

Contents

○巻 頭 言	杉原 瑛治	1
○第23回福岡県学校歯科保健研究大会		2
実践活動報告①	深田 恭代	3
実践活動報告②	八女高等学校	3
基調講演	平瀬 久義	4
特別講演	山下 喜久	4
○平成30年度第5回福岡県よい歯の学校表彰について報告		5
○第82回全国学校歯科保健研究大会	一之瀬達也	7
○平成30年度全国学校保健・安全研究大会・第68回全国学校歯科協議会	平瀬 久義	8
○平成30年度新規採用養護教諭研修会報告	柳迫 正俊	8
○特別支援学校の歯・口の健康づくり	安田 誠	9
○歯 鏡	三箇 正人	10
○GO!!学校へ行こう	入江 祐彰	11
○平成30年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」審査結果		12
○平成30年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」受賞者		13
○平成30年度 歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール受賞作品並びに総評		16
○郡市区だより		
田 川	菅 義浩	17
飯 塚	後藤 英伸	18
粕 屋	伊山 愼二	19
糸 島	石井 香	20
小郡三井	金澤 憲孝	21
浮 羽	廣田 恭彦	22
久 留 米	古賀 浩明	23
大川三瀧	田中 勝馬	24
門 司	牛島 正雄	25
遠賀中間	日高 里史	26
○表 彰		27
○事業報告、会務報告		28
○物故会員、公告、予告、編集後記		29

新年度に向けて

会 長 杉 原 瑛 治



平成最後の新年です。今年もがんばりましょう。

昨年度の、このご挨拶で学校保健安全法施行規則が変更されることをお知らせしました。お手元の「学校歯科医の活動指針」による保健活動に支障がありませんでしたか。滅菌、消毒について、口腔内に手指を入れない、必要によってはダブルミラーで行う、原則グローブの使用となっています。この方法にはまだ学校によってはご理解を頂く余地があります。しっかり話し合う必要がありますがいかがでしたか。また診断票の記入方法、事後措置に関すること、健診の結果による指導方法を記載した「健診結果のお知らせ」を全生徒に配布するようになり、異常の認めない児童・生徒もお知らせをして、今後の自分の健康課題を見つけ出して励みにする。また「保健調査票」の有効活用をするために全家庭、全児童・生徒に事前調査を行い、家庭との連絡内容をしっかり把握しておくようになりましたが、まだ出来てない学校がたくさんあることが解かりました。これはしっかりやってもらって学校と家庭との保健問題を共有しておくことの大切さを理解してもらうことです。

一般社団法人になり会員の皆様に県学歯での事業を理解して戴こうと努力していますが、内容を誤解している会員が、その誤解している内容で拡散し、それを鵜呑みにしてきた会員が脱会している。これは不思議な現象です。会員の後ろには児童・生徒・養護教諭・学校があります。そして将来を担う子供たちに必要な情報が伝わらず、県学歯・日学歯への事業の不参加により啓発事業等が出来なくなり、さびしい思いをさせています。一番大事な教育の時期に空白期間が生じます。この記事をお読みの先生方で、周りにそのような方がおられましたら、再加入を勧めて頂けたら幸いです。会費は会員のためにしか使用できません。

現在90周年を機に70年史以降の記録誌発行を準備しています。今後の広報活動の参考になるように記録させていただきました。このことにより学校歯科医会の先輩たちの努力を知って頂き、この会の存在の意味を皆様に理解いただき、さらに対外への広報活動も行っていきたいと思います。会員の皆様には配布させていただきます。

歯科健診結果統計調査も福岡県健康増進課との連携が出来、今後の活動も変わっていくかもしれません。

歯科保健は疾病志向から健康志向へ大きく舵を切り、私たちは学校歯科保健の専門職として、歯科保健教育、学校保健委員会等での活動の範囲が広がりました。学校に出かけましょう。学校歯科医として活動しましょう。今後益々先生方に期待をしています。雑然となり取り留めのない報告になりましたが新年の御挨拶といたします。終わりにになりましたが、お体に十分ご留意戴きご活躍戴きたいと思います。

第23回福岡県学校歯科保健研究大会 開催



平成30年11月17日（土）、福岡県歯科医師会館5階大ホールにて、第23回福岡県学校歯科保健研究大会が開催されました。日本学校歯科医会、福岡県教育委員会ほか多数の来賓を迎え、学校歯科保健をより良きものにするため、共に学ぼうと学校歯科医、養護教諭、学校栄養士、歯科衛生士、学校関係者、教育関係者など327名のご参加をいただきました。

杉原会長の挨拶の後、日本学校歯科医会平塚副会長をはじめ、来賓の方々から祝辞が述べられ、続いて表彰式が行われました。団体表彰として柳川山門歯科医師会、よい歯の学校表彰として5つの小・中学校、および「平成30年度歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」の受

賞者が表彰され、表彰後には壇上で記念撮影が行われました。

その後、今年の大会テーマ『「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して」～自らの健康行動につながる効果的な歯科保健活動～』の下、2校の実践活動報告と基調講演、及び特別講演が行われ、盛会の裡に大会を終えることが出来ました。

まだ参加されたことのない先生は、今後の学校歯科保健活動に役立つヒントがたくさんありますので、ぜひ一度足をお運びください。また、学校関係者にも広く参加して頂きたいので、校医を担当する学校の養護教諭にもお声掛け頂ければ幸いです。来年も皆様方の参加をお待ちしております。



日学歯 平塚副会長



杉原会長

テーマ「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して」

～自らの健康行動につながる効果的な歯科保健活動～

実践活動報告①

「小学校における食育の実際」

～児童の実態と栄養教諭の取り組み～

春日市立春日西小学校 栄養教諭 深田 恭代



平成17年に学校教育における食育の推進の為、食育基本法が施行され「栄養教諭」制度が創設された。

現在、福岡県内に368名（全国に6,092名）で5校に1名程度である。

栄養教諭の職務は食に関する指導・学校給食の管理があり、職に関する指導とは

- ・食のカウンセラー（児童・生徒、保護者に対する個別的な相談指導を行う）
- ・食のティーチャー（食と関連した指導を行う）
- ・食のコーディネーター（家庭・地域・学校をつなぐ）

といった内容です。

実際の食育として

(1)児童の食の実態と課題の調査

- ・朝食の摂取状況・内容（主菜のあるなし、野菜の有無など）
- ・偏食・少食・遅食について（極端な好き嫌い、噛むスピード、一口の量など）
- ・食事のマナーについて（はしの使い方、姿勢など）

(2)カウンセラーとしての取り組み

給食時の子供たちの様子を観察し、問題点を抽出、改善する為に専門家（医師・歯科医師など）に相談し、生徒、担任、保護者の指導を行う。

(3)コーディネーターとしての取り組み

学校給食の強み①全校一斉に共通の献立で食べる②食べるという体験活動ができる③毎日の指導の積み上げができるという事を生かす。

11のテーマ献立（かむかむ献立・いわしを骨ごと食べられる献立など）の献立カレンダーを作り、給食での指導の「ねらい」をお知らせする。

さらに「おはしの持ち方練習会」を行い、正しくもてる児童が59.7%から70.4%に改善した。

(4)食のティーチャーとしての取り組み

給食の献立を生かして「噛むことの良さを知ろう」「食物繊維の働きを知ろう」「カルシウムの大切さを知ろう」などの指導を行っている。

以上、学校での取り組みの報告をしていただきました。

実践活動報告②

「自分で知り、自分で管理する力強い歯」

～生徒保健委員会の取り組み～

福岡県立八女高等学校 生徒保健委員会



まず、八女高等学校の学校紹介を行い、平成27年度の歯科健診の結果で未処置歯の保有者数が約2人に1人（全国の高校生 4人に1人）と、2倍多かったことから始めた3年間の保健委員会の取り組みについての発表を行った。

平成27年度

- ・歯科健診の結果の前年との比較
- ・歯・口腔のアンケートの集計
- ・学校歯科医への質問

平成28年度

前年に追加して

- ・フッ化物の働きを調べる
フッ化物の実験ではフッ素入り歯磨き剤を卵の半分塗布し、半日放置してから酢につけて表面の差を調べる。
- ・歯と握力に関する実験
口を開けた状態と噛んだ状態で握力を測って差異をグラフ化し、噛むことの重要性を確認した。

平成29年度

さらに歯磨き推奨週間を追加して6月と11月に歯磨きを推奨する1週間を設けて歯磨きについてのアンケートも行った。

以上のことは、毎年文化部発表会で展示発表を行っている。

3年間の取り組みの成果として「自分で歯の健康について知り、自分で管理する」という意識を高めることができたまとめている。

基調講演

「統計調査からわかること、その活用」

一般社団法人福岡県学校歯科医会 専務理事 平瀬久義



基調講演は、福岡県学校歯科医会が18年続けてきた統計調査事業の意義と成果について講演された。

教育の場で行われる歯・口の健康診断は、「保健管理」と「保健教育」の一環として行われるものであり、単に疾病や異常の発見だけでなく、児童生徒が自分の健康状態を知り、自発的な健康増進をめざす糸口となることを目的とする。

学校歯科医や養護教諭は、勘や予測ではなく、統計調査などの結果を、地域、県、国のデータなどと比較分析することにより、科学的根拠に基づく正しい健康状態を知ることができる。また、過去の推移を見ることにより学校の取り組みの成果を評価できる。その結果に基づき、問題点や課題を評価分析することで、適切な目標や対策を講じることができる。このように統計調査を学校歯科保健活動に大いに役立ててほしい。

講演は35分ほどであったが、途中、実際に歯・口の健康診断集計値を記入する実習を取り入れて、記入方法や注意点などを分かりやすく説明された。

特別講演

「学校歯科保健における健康管理としての

健康診断の位置づけの変化」

九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野

教授 山下 喜久



まず、先生は我が国の口腔保健の推移として若年者のカリエスの減少傾向と高齢者の歯の残存歯数が

増加傾向であることを説明し、これからの歯科診療の将来予測として、歯の形態回復を主とする健常者型から、口腔機能の回復を主とする高齢者型に変化していくだろうと述べられた。そこで、現在歯数と歯科診療費の関係性から欠損歯数の増加は、全身疾患の増加と密接に関係しており、しいては医療費負担増につながると話された。

そこで、学校歯科保健活動の役割として、かつての齲蝕洪水時代の歯科健康診断にはなかったCO・GOなどの診査基準が導入され、以前の健康管理型集団検査から調査研究型集団健診へと変化したことを述べた。学校歯科健診では、視診中心に行うが、歯周組織の検査の場合、高等学校3年生においては、プローベ測定も行うべきではとの指摘を受けた。

その理由として、我が国の公的歯科健診システムを考えると高等学校3年生は学校歯科健診最後の年代であり、その後40歳以上の歯周疾患検診時まで公的な歯科健診サービスはありません。そこで、高等学校最終学年時に、自分の歯周組織の状態を正解に把握しておく事は、歯周病に対する関心を高めて、口腔の管理は自己責任で行う動機付けに役立つとの事だった。

また日常臨床の立場から修復処置に移行するタイミングも歯周状態、歯垢の状態でカットオフをどこに設定するか、どこから削るのかなどの判定基準が、歯科医師の臨床経験に大きく依存しており、客観的数値化による診断が必要と述べた。

次に、口腔と全身の健康の関連性についての話があり、まず肥満と歯周病の関連性では、標準型・やせ型に対して約8倍の歯周病の進行する確率があった。しかも、肥満のタイプにも関係性があり、皮下脂肪型肥満よりも内臓脂肪型肥満の方が圧倒的にそのリスクが高い事がわかった。そして、糖尿病とのからみでは発病以前に歯周組織状態が良好な場合、発病時の歯周病の進行と有意な関連は認められなかったが、発病以前に歯周組織の状態が不良な場合は歯周病の進行は、糖尿病ではない人たちに比べて2.23倍のリスクがあり、肥満がある場合は歯周組織の状態が良好な場合でも、肥満ではない人に比べて歯周病の進行は、1.41倍高い事がわかった。その他の生活習慣病（高血圧・脂肪異常症・悪性腫瘍など）でも現在歯数や歯周病の進行度によって有意な関係が認められ、歯の本数が少ない人ほど認知症になりやすい事もわかった。

口腔マイクロバイームと健康に関してだが、齲蝕も歯周病もマイクロバイーム疾患であり、口腔各部位のマイクロバイームの細菌種構成の違いを説明され、歯周病と口腔健康関連因子との関係から、口腔細菌群のバランスが悪いと進行が速くなるとの事だった。

最後に口腔の健康の為に適切な口腔管理を実施し、歯の喪失を未然に防ぐ事が生涯28本の歯を残し、ゆくゆくは健康寿命の延伸、高齢社会の持続可能な発展につながることである。そこで、自らの口腔保健の意味を理解させ生涯28本の歯を残すことで豊かな人生を全うする知恵と術を伝えることが、これからの学校歯科保健の大きな目標であるとしめられた。

平成30年度第5回福岡県よい歯の学校表彰

選出基準

「よい歯の学校表彰」選出につきましては、以下の2つの事項を念頭に決定しました。

- ①前年度の「歯・口の健康診断結果統計調査」に基づき、DMF T0.5以下でカリエスフリー率が高い学校。
- ②学校規模（小規模校、中規模校、大規模校）。

選出につきましては、数値的に非常に近接した学校が多数あり難航いたしました。2つの事項を考慮して慎重に選出いたしました。

第5回福岡県よい歯の学校表彰 表彰校

田 川	田川市立猪位金中学校	学校歯科医	秀谷 高則
直 方	鞍手町立剣南小学校	学校歯科医	久原佐知子
宗 像	宗像市立自由ヶ丘小学校	学校歯科医	新原 秀俊
		学校歯科医	村田 智博
小郡三井	小郡市立宝城中学校	学校歯科医	佐藤 邦雄
八女筑後	筑後市立古島小学校	学校歯科医	坂田 人志



◇参加者の声（アンケートからの抜粋）◇

学校教育関係3名、養護教諭・保健主事15名、学校栄養士・栄養士2名、学校歯科医（含園医）13名、歯科衛生士6名、その他22名の計61名より回答を頂きました。

☆養護教諭☆

- 生徒保健委員会の発表はとても良かったです。生徒から広げる「歯の健康教育」→小学生バージョンで広げていけたらと思います。
- どの講演もとても為になるものばかりでした。特に高校生の生徒保健委員会の発表が素晴しかったです。展示コーナーでたくさん貴重な資料を頂くことができ、良かったです。今後の実践で是非活用していきたいです。
- 毎年この日を楽しみにしています。歯科医の方から、専門的なお話を聞くことが出来る貴重な日です。今後も様々なことを学ばせていただきたいと思います。

☆学校栄養士・栄養士☆

- 特別支援学校に勤務しているのですが、むし歯、噛み合せ、嚥下、咀嚼に問題がある児童がたくさんいます。今回、勉強したことを生かして、学校・家庭に伝えていきたいです。本当にありがとうございました。

☆学校歯科医（含園医）☆

- 実践発表が素晴らしかった。平瀬先生の講話は分かりやすく、今後の学校歯科保健活動の充実につながると感じました。沖縄から参加して、手応えのある研究大会でした。
- 春日西小学校の深田先生は美しい声でとても聴きやすかったです。発表内容も分かりやすく、お箸の持ち方、カミカミ献立参考になりました。八女高等学校の発表は、声をはっきり大きくて聞きやすかったし、内容もわかりやすかったです。
- 統計調査を長く続けることの大切さに気づき、この統計調査報告書を活用しようと思いました。

☆歯科衛生士☆

- 近年噛めない子が目立つように感じます。トレーニング方法等、学校・家庭でも行えるポイント等あれば、少し加えていただけると助かります。

展示コーナーから

福岡県学校歯科保健研究大会ではメイン会場とは別会場に展示コーナーを設けています。

本年度も日本学校歯科医会コーナーから八女茶の販売、フリードリンクコーナーに至るまで計12団体による展示や販売等が行われました。その中から今回は2つのコーナーに突撃取材をしました。

①健診用コンピューターコーナー

岐阜県に本社のある株式会社システムマインドが開発・販売している学校歯科健診システム“あすなる健診”。パソコンへ入力することで養護教諭の職務を軽減し、データ化することで経年的な管理や個別の保健指導が可能とのことで担当者に話を伺いました。「この前、新しく導入した小学校が児童数500～600人位だったんですけど、健診が終わった後にプリントアウトしてどの箇所に歯垢や歯肉の異常があるかをチェックして、むし歯があればむし歯マークが付くのでこれを貰って歯磨き指導をする。こういった流れは実際はじめての学校で出来てしまいましたね」「あすなる健診」は定期的にバージョンアップを行っており、タッチパネルや音声入力対応も可能。転校生や転入生のデータのやり取りも出来、事前に保健調査表を入力しておけば、その児童の特徴も分かります。実際の導入に関しては「予算の面で問題だったり、手間はかかるけど今やれてるからと言ってどうしても後回しにされる」との事ですが、日本学校歯科医会推薦品でもあり、福岡県学校歯科医会一之瀬理事も「福岡県下の学校に順次取り入れていきたい」と抱負を語っていました。



②福岡県歯科衛生士会コーナー

続いては、一般社団法人福岡県歯科衛生士会。東西南北に支部が分かれており、今回は西支部が担当で、支部により展示内容が少し異なるとのこと。展示は全て手作りの指導媒体で、基本の形はあるがそれぞれ各自が工夫して作り替えているそうです。例えば、手作りの顎模型の臼歯部はペットボトルの底を内面からスプレーで白色に塗り、指導用の大きな歯ブラシはボディブラシを流用しているといった具合です。そして模型の歯面に赤のマジックを塗って歯垢に見立てます。「染め出しをしてから実際に歯を磨いていくのでこの模型が赤い時には子供たちの歯も赤いんですよ。赤くなってたのが白くなった瞬間がどよどよとすごい声があがります。この辺のインパクトはすごく強いですね」とは担当者の弁。「でもやっぱりみんな個人で動いているので、いろんな資料がなかなか手に入らないのでそこがちょっと苦戦している所です」先生方のご協力、どうぞよろしくお願いいたします。



第82回全国学校歯科保健研究大会

理事 一之瀬 達也



平成30年12月6日（木）7日（金）北の青森から南の沖縄に舞台を移し、第82回全国学校歯科保健研究大会が盛大に開催されました。当会からは杉原会長、三箇副会長、平瀬専務理事、私一之瀬が参加しました。

本大会は『「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して』『学校歯科保健活動のもつ教育力を考える』との主題及び副題で、その無限の可能性を再認識させられました。

大会1日目は開会式、表彰式が行われ主催者挨拶、来賓祝辞に続き、全日本優良校表彰表彰状授与が行われました。基調講演では首都大学東京 星旦二名誉教授による「児童生徒が身につける長寿の秘訣」という演題で講演が行われました。

児童が身につける長寿の秘訣について、将来児童生徒の健康長寿のためには、口腔ケアを大切に、やや小太り（これは肥満とは違います）でコレステロールが高めのほうが長寿のようです。かかりつけ歯科医がいる方がいい、しかしかかりつけ医についてはいない方がいいというデータが出ています。何故かかりつけ歯科医がいると健康長寿に結びつくかと言う事ですが、星 旦二 名誉教授らは65歳以上16,462名を6年間追跡し、その結果、かかりつけ歯科医がいる方が男女問わず生存率が高いということを世界で初めて明らかにされました。薬漬け医療でのNNK（ネンネンコロリ）、これは長い期間寝たきりの見せかけ長寿で、口腔ケアがPPK（ピンピンコロリ）、これは寝たきり期間がない長寿に貢献しているとの見解でし

た。全世界の降圧剤の約半分は日本で消費されているという驚くべきデータも出ています。PPK健康寿命が長くてコロリ、NNK寝たきりの期間が長くてコロリ。もちろんPPKがいいですね。

我々学校歯科医は子供たちに、「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくりを目指していますが、これには保健教育やフッ化物の応用等が必要と考えられます。成長して「生き抜く力」を得るには適度の飲酒は結構ですが、喫煙は絶対ダメです。そして野菜をたくさん食べて、十分に睡眠をとる。アルコールが原因の肝臓ガンはないそうです。C型肝炎由来です。

さて日本歯科医師会が提唱してきた8020運動も30年を迎え、一昨年には50%超の達成ができました。これからは生涯28を目標に掲げ、保健教育 保健管理 組織活動に取り組み、ACFFの掲げる、これからの子供たちからCavity Free Futureを目指したい。そして、子供たちが健康寿命100歳を目指せるように行動していく責務があるのではないのでしょうか。

2日目は、領域別研究協議会というかたちで、幼稚園・認定こども園・保育所部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会、特別支援部会に分かれて実践発表研究協議が行われました。

その後、領域別協議会と1日目のシンポジウムの報告があり、今回初めて多くのポスター発表に対する表彰が行われました。最後に大会宣言が採択された後に、次期開催地である山口県よりのアピールが行われ、閉会となり全日程を終了しました。



平成30年度 全国学校保健・安全研究大会 第68回全国学校歯科協議会

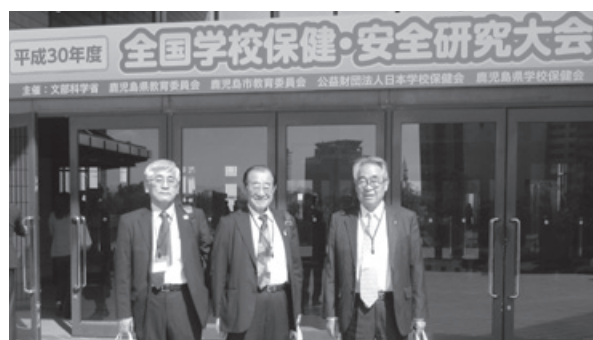
専務理事 平 瀬 久 義

平成30年10月25日（木）26日（金）平成30年度全国学校保健・安全研究大会が、鹿児島市の鹿児島市民文化ホールで「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」～自ら健康で安全な活力ある生活を送ることができる子供の育成～というテーマで開催された。本大会は、学校保健に携わる関係者が一堂に会し研究協議するもので、杉原会長、三箇副会長、永江監事と平瀬が参加した。

初日、開会式において文部科学大臣表彰伝達式が行われ、受賞された大牟田の草野鴻志先生にご出席いただいた。翌26日は10の課題に分けて研究協議会が開催され、学校歯科に関しては、第5課題「歯・口の健康づくり」で“生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方”という標題で研究協議が進められた。上記標題では福岡県教育庁教育振興部副理事兼体育スポーツ健康課寺崎雅巳課長を講師に迎え、愛知県立瀬戸高等学校丸山教頭をコーディネー

ターとし、桂川町立桂川東小学校養護教諭穴井由貴先生他2名の研究発表が行われた。

また25日（木）は、第68回全国学校歯科医協議会が開催され、開会式、大臣表彰者紹介に引き続き、鹿児島大学大学院小児歯科学分野教授山崎要一先生による「こんなところにも目をむけよう！スクリーニングとして重要な学校歯科健康診断」という演題で講演が行われた。



平成30年度 新規採用養護教諭研修会報告

常務理事 柳 迫 正 俊

福岡県教育委員会では、新規採用養護教諭に対して学校における健康教育を推進するため、養護教諭の職務と責任の認識を深め、専門的知識・技能の向上を図ることを目的に毎年校外研修が開催されています。今年度は10月26日に県立スポーツ科学情報センター（アクション福岡）で開催され、私が講師として出席した。

研修では「学校歯科保健活動の実際」という演題で、学校歯科保健の重要性と学校歯科健康診断の意義と目的、そして健診結果の活用方法と学校保健委員会の活性化などを講義し、学校管理下における外傷時の対応等についても話をしました。その後、福岡県歯科衛生士会の松永副会長からは、学校現場での歯みがき指導や、手作りグッズを使った指導法の実演があり、大いに盛り上がったところで研修は終了した。

後日、受講者からは「学童期は他律的健康づくりから自律的健康づくりへ移行する時期だからこそ、この時期にしっかり健康教育をしていく必要があることがわかった」、「子供が主役の教育と管理を円滑に進めるために環境を整備したい」、「歯

科健診が児童生徒の健康増進を目指す糸口となるよう、健診結果をしっかりと分析し有効に活用したい」、「学校保健委員会でも歯について考えてもらう機会をつくりたいと思った」、「かむことの大切さも教えていきたい」等々の感想をいただき、養護教諭のみなさんの熱意がひしひしと伝わった。

今年の新規採用受講者は35名で世代交代も進み、このような活気あふれる熱心な先生方が学校現場で活躍してもらえれば学校歯科保健活動はさらに活性化していくと思います。講義をする中で我々学校歯科医もその職務と役割の重要性を実感した1日だった。



特別支援学校の歯・口の健康づくり

広報委員会 委員長 安 田 誠

私が19年お世話になっている福岡県立柳河特別支援学校の簡単な紹介と、歯・口の健康づくりに関する事をお伺いしてきたので報告します。



健診風景

本校は、視覚障害教育部門、肢体不自由教育部門、病弱教育部門の3部門での教育活動を行い、幼稚部、小学部、中学部、高等部があり計64名が在籍している。幼児児童生徒の10名は医療的ケアを必要としている。又、視覚障害部門には、寄宿舎があり3名が利用し通学している。他にも通学できない児童生徒の為に訪問教育も行っている。このように、特別な配慮を必要としている児童生徒の為に学校である。



児童とのコミュニケーションの様子

給食も個々の実態に合わせて、普通食、粗刻み、小刻み、ペースト、裏ごしの5つの食形態で提供している。(写真1) 歯垢の付着の少ない食物繊維が多い野菜やきのこをたっぷり使い、昆布出汁などしっかり使うことで砂糖の摂取も減らしている。



(写真1) ペースト状の食事

食後の歯磨きは、経管栄養による摂取の児童も含め、全員実施している。(写真2) しかし、口を長く開けることができない、歯ブラシを払いのける、歯ブラシをすぐ噛んでしまう、嘔吐反射が強い、歯ブラシや水分の感触を嫌がるなど様々で、仕上げ磨きの際には、かわり遊びをしながら歯を磨き、口の中に



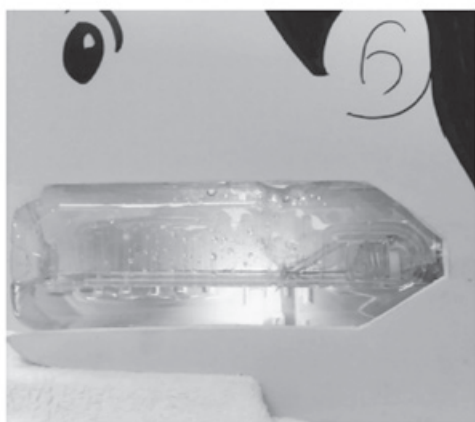
(写真2) 歯みがき指導

歯ブラシを入れる回数を増やしたり、歯ブラシを噛む児童生徒に対しては、2本の歯ブラシを用意し、1本は噛まない様にして磨いたり、歯ブラシについた水で誤嚥する可能性のある児童生徒には、タオルなどで歯ブラシの水を落とし吸引器で水分や唾液を吸引しながら磨いている。歯ブラシもスポンジブラシを使用するなど個々の実態に合わせ選択、口ゆすぎの指導も行うが、出来ない児童生徒には水分を取らせるようにしている。(写真3)

いろいろな工夫をしながら歯磨きを行っているが、日頃からの信頼関係づくりがとても重要である。

児童生徒はさまざまであるが、基本的には毎日自分で磨くという意識付けや、歯の磨き方の指導を行い、むし歯に関する絵本の読み聞かせや歯磨きの歌を聴かせるなどして、自主的に歯を磨こうとする意欲を育てるよう指導している。

口ゆすぎ指導



ブクブクうがい



(写真3)

ガラガラうがい

歯鏡

平成の時代が終わろうとしている。徳川の時代から明治、大正、昭和、そして平成と時代が移り変わってきたが、歯科医師手帳の満年齢、西暦早見表からすでに明治は消えている。戦後生まれ、団塊の世代の私を含め、戦争を知らない世代が社会を構成する時代となった。

テレビも冷蔵庫も洗濯機も珍しく、自家用車なんかとは無縁の子供時代。ましてや携帯の電話なんぞよほどの金持ち以外には無理、無縁だったのに、今やほとんどの家庭に当たり前のようにある。人間のあくなき欲望は、文化、文明の進歩とともに留まることを知らない。

健康に関しても、平成の初めの頃は、食事・運動・休養・喫煙・飲酒などの生活習慣がその発生や進行に関与する、いわゆる生活習慣病に対する認識があまりなく、公共の列

車・バスの中にも灰皿が付いていたし、病院・診療所のなかでタバコ吸いながらの診察風景もあった。時代進歩の速度に、団塊の世代は開き直らないと生きていけないスピードである。

しかし、次の時代を生きる子供たちは、当たり前のようにこの進歩の速度に乗り遅れることなく、悠々と楽しんでいるのみならず、さらに進歩の速度を速めている。「後生畏るべし」である。この無限の可能性を秘めている子供たちと関わり合いながら、歯・口の健康を通し、健全なる未来を拓く子供たちに影響を及ぼす私たち学校歯科医の使命は大きい。

子は、親の背中を見て育つといわれているが、自分の背中は見えない。一枚の鏡では見えない。あらゆる角度から子供の育ち方、生き方、振舞いをありのまま見て、その中に見えてくる姿が、今世の自分の姿なのだろう。

副会長 三箇 正人

GO!! 学校へ行こう

広報委員会 委員 入 江 祐 彰



みなさんが校医を担当する学校に学校保健委員会はありますか? 私が担当する宗像市立河東西小学校では学校保健委員会と給食運営委員会との共催という形で年に2回、お昼休みの時間帯に1時間程度開催されます。構成は委員長、副委員長、保健運営委員、給食運営委員、学校教職員、監事の計20名で、委員にはPTAも含まれます。校医は保健運営委員にあたり、歯科のほか、内科や眼科、耳鼻科、薬剤師の先生も含まれます。



会議は保健主事の進行で、始めの言葉、学校長挨拶と続き、協議として委員会規約や組織について、次いで保健主事・養護教諭による学校保健についての説明があり、ここで今年度の歯科健診の結果についての報告もあります。続いて給食指導担当・学校栄養士による学校給食について、その後、教頭より学校給食費の納入状況についての説明がなされ、最後に学校医・運営委員より意見が求められます。そこで私が

利用したのは、福岡県学校歯科医会制度調査委員会が作成し、毎年春に配られる「福岡県歯・口の健康診断結果統計調査報告書」及び「福岡県 小中学校歯・口の健康診断結果統計調査における各市町村小中学校の健康診断結果の概要についての考察」。特に後者には自分の担当校が所在する市町村のデータと概要についての考察が載っていてとても便利です。私の場合、



今年度と昨年度の担当校の健診データを取り寄せて両者の比較を行い、さらに資料にある表やグラフに担当校のデータを記入することで市、県、そして全国平均値とも比較することができました。後はそれを参考に自分なりの考察を組み立てていけばよいわけです。学校保健委員会に一度も行っていない先生はとりあえずGO!学校へ行こう!!



平成30年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」審査結果

図画・ポスターコンクール 幼稚園

教育委員会賞	朝倉	ひまわり幼稚園	5歳	いしかわ	かりん
優秀賞	門司	幸幼稚園	5歳	藤川	千歳
入賞	朝倉	甘木幼稚園	5歳	津田	三太

図画・ポスターコンクール 小学校低学年

会長賞	飯塚	桂川東小学校	1年	たなか	れんと
教育委員会賞	小郡三井	大堰小学校	3年	香月	大地
優秀賞	久留米	日吉小学校	3年	伊地知	莉世
優良賞	京都	今元小学校	1年	吉田	楓
佳作	朝倉	蜷城小学校	2年	西りょうたろう	
佳作	八女筑後	羽犬塚小学校	2年	まちだ	ひでと
佳作	小倉	清水小学校	3年	本田	正翔
入賞	豊前築上	上城井小学校	2年	野正	桜愛
	田川	田川小学校	3年	榊原	樹那
	直方	宮田南小学校	2年	かるべ	おうら
	宗像	福岡南小学校	2年	たかはし	さな
	粕屋	篠栗小学校	1年	元澤	奏
	筑紫	大野南小学校	2年	新開	美里彩
	浮羽	大石小学校	3年	和田	あい
	大川三潁	高取小学校	1年	りゅう	ひなた
	柳川山門	六合小学校	2年	原田	菜央
	大牟田	三池小学校	2年	田中	希空
	門司	伊川小学校	2年	木の	もな
	若松	古前小学校	1年	いしどう	むねか
	八幡	中尾小学校	3年	古賀	柚羽

図画・ポスターコンクール 小学校高学年

会長賞	大川三潁	木佐木小学校	6年	松永	玲
教育委員会賞	粕屋	須恵第三小学校	6年	橋本	寿乃
優秀賞	浮羽	山春小学校	6年	金丸	涼香
優良賞	筑紫	大和小学校	6年	後藤	遥
佳作	宗像	赤間小学校	6年	澤田	夢芽
佳作	朝倉	福田小学校	5年	西	ももか
佳作	久留米	東国分小学校	6年	片桐	くるみ
入賞	京都	節丸小学校	4年	川邊	治己
	豊前築上	下城井小学校	6年	後藤	南菜子
	粕屋	篠栗小学校	5年	太田	愛乃
	田川	伊方小学校	4年	天野	月渚
	直方	感田小学校	4年	三浦	奈桜
	小郡三井	菊池小学校	6年	東島	奈央
	柳川山門	両開小学校	5年	木本	セイラ
	大牟田	銀水小学校	4年	奥蘭	寧音
	門司	伊川小学校	6年	奥	恵佑
	小倉	葛原小学校	5年	鈴木	風花
	戸畑	あやめが丘小学校	5年	矢竹	未来
	若松	古前小学校	5年	上野	友美永
	八幡	永犬丸小学校	6年	大庭	菜穂

図画・ポスターコンクール 中学生

会長賞	筑紫	春日野中学校	3年	内田	菜那
教育委員会賞	大牟田	宮原中学校	3年	有田	光玖
優秀賞	飯塚	飯塚第一中学校	3年	中村	莉子

優良賞	遠賀中間	遠賀中学校	3年	在津	采佑乃
佳作	京都	行橋中学校	3年	田中	暖乃
佳作	宗像	中央中学校	1年	青木	梨緒
佳作	大川三潁	大川南中学校	3年	北原	梨織奈
入賞	豊前築上	上毛中学校	3年	是石	留菜
	田川	金田中学校	3年	貫	聖龍
	宗像	植木中学校	2年	沖田	千佳
	粕屋	新宮中学校	3年	伊藤	愛香
	朝倉	甘木中学校	2年	小西	優里奈
	久留米	荒木中学校	3年	中島	明音
	八女筑後	福島中学校	1年	山本	優利菜
	門司	緑丘中学校	2年	山田	彩和華
	八幡	穴生中学校	2年	渡辺	真生子

図画・ポスターコンクール 高等学校

入賞	八女筑後	輝翔館中等教育学校	4年	仁田原	菜那
----	------	-----------	----	-----	----

図画・ポスターコンクール 特別支援学校

教育委員会賞	直方	直方特別支援学校小学部	2年	ながはら	まさみつ
優良賞	小郡三井	小郡特別支援学校	6年	的場	拓真
佳作	豊前築上	築城特別支援学校小学部	5年	永丘	美来
佳作	久留米	久留米特別支援学校中学部	2年	中嶋	拓海

標語

会長賞	遠賀中間	遠賀南中学校	3年	水野	春
優秀賞	飯塚	立岩小学校	5年	尾崎	絆菜
優良賞	田川	落合小学校	5年	藤井	颯花
入賞	京都	伊良原小学校	6年	松野	結
	豊前築上	合岩小学校	1年	上野	隆弘
	直方	直方特別支援学校中学部	3年	田代	一景
	筑紫	大野中学校	2年	小野原	暖基
	朝倉	立石小学校	5年	池邊	心美
	八女筑後	忠見小学校	6年	加藤	小桜
	門司	柄杓田小学校	6年	池松	侑香
	戸畑	一枝小学校	5年	吉田	未来
	若松	古前小学校	5年	池田	夢愛華
	八幡	枝光小学校	6年	廣瀬	そよ花



平成30年度
歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール受賞者



小学校低学年

飯塚 桂川東小学校1年
たなか れんと



小学校高学年

大川三瀨 木佐木小学校6年
松永 玲



中学生

筑紫 春日野中学校3年
内田 菜那

教育委員会賞



幼稚園

飯塚 ひまわり幼稚園 5歳
いしかわ かりん



小学校低学年

小郡三井 大堰小学校3年
香月 大地



小学校高学年

粕屋 須恵第三小学校6年
橋本 寿乃



中学校

大牟田 宮原中学校3年
有田 光玖



特別支援学校

直方 直方特別支援学校小学部2年
ながはら まさみつ

優秀賞



小学校低学年

久留米 日吉小学校3年
伊地知 莉世



中学校

飯塚 飯塚第一中学校3年
中村 莉子



幼稚園

門司 幸幼稚園 5歳
藤川 千歳



小学校高学年

浮羽 山春小学校6年
金丸 涼香



特別支援学校

小郡三井 小郡特別支援学校6年
的場 拓真

優良賞



京 都 今元小学校1年
吉田 楓



筑 紫 大利小学校6年
後藤 遥



遠賀中間 遠賀中学校3年
佐津 采佑乃

佳 作



朝 倉 蜷城小学校2年
西 りょうたろう



八女筑後 羽犬塚小学校2年
まちだ ひでと



小 倉 清水小学校3年
本田 正翔



朝 倉 福田小学校5年
西 ももか



宗 像 赤間小学校6年
澤田 夢芽



久留米 東国分小学校6年
片桐 くるみ



京 都 行橋中学校3年
田中 暖乃



宗 像 中央中学校1年
青木 梨緒



久留米 久留米特別支援学校中学部2年
中嶋 拓海



大川三瀬 大川南中学校3年
北原 梨織奈



豊前築上 築城特別支援学校小学部5年
永丘 美来

標 語

優良賞

健康な口は

ハッピーになれる 力をもっている

田川 落合小学校5年 藤井 颯花

優秀賞

歯みがきで

笑顔かがやく きれいな歯

飯塚 立岩小学校5年 尾崎 絆菜

会長賞

贈ろうよ

未来の自分へ 元気な歯

遠賀中間 遠賀南中学校3年

水野 春

平成30年度 歯・口の健康に関する図画・ポスター審査 総評

福岡県教育センター 産業・情報教育部 情報教育班 主任指導主事 合田 賢治先生

【選后感】

○総評

校種・学年によって出品数には大きな差がありましたが、歯・口の健康づくりに関する、みんなが健康で明るい社会をイメージできるような作品が多く見られました。全体的に明るい色づかいでのびのび描かれており、見ていて楽しくなるような作品ばかりでした。

○幼稚園の部

大きな画用紙に、自分の顔ほども大きな口を開けた顔を生き生きと描いていました。体全体を使ってしっかりとクレヨンや色鉛筆で塗りこんでいる様子だけでなく、日ごろから大きく口を開けて一生懸命に歯を磨いている様子まで思い浮かびました。出品が少なかったのが残念です。

○小学校低学年の部

大人の歯に生えかわる低学年の子どもたちは、歯磨きにも力強さを感じるようになりますが、それがそのまま絵にも表れていると思います。また、いろいろな色を試したり、描きながら形を考えたりして、楽しみながら自分なりに工夫して表現しているようです。表情のよさや勢いのある筆づかいが印象的でした。

○小学校高学年の部

高学年になると、伝えたいことがはっきりしています。自分が表現したいと思ったことをストーリー化してイメージを確かなものにし、表現しながらも新しく思いついたことを次々に加えながら作品を完成させているようです。今回のほとんどの作品が、むし歯の予防を訴えるものだったため、食を通した歯・口の健康づくりを題材にするなど、まだまだアイデアは広がりそうです。

○中学生の部

柔軟な発想で思い切った大胆な画面構成にチャレンジしている素晴らしい作品が多く驚かされました。画面の背景は偶然にもほとんどの作品が暖色系で、温かみを感じられる作品ばかりでした。それは、スマートなデザインでありながらも、歯・口の健康づくりを通じて生涯にわたってみんなが健康に

暮らせる社会を願って描かれているからではないかと推測します。

文字の描き方や色の境目などをもっと細部まで意識して制作していたら…と思う作品もありました。歯・口の健康づくりと同様に、作品づくりも生涯にわたってできることです。どちらも隅々まで意識を巡らせられるように頑張っていたきたいと思います。

○特別支援学校の部

歯みがきのときの一定のリズム、聞こえてくる音、好きなものを描けたり思い通り紙を貼ったりしたときの喜びや指から伝わってくる絵の具の触感など、子どもたちが様々な心地よさを感じているシーンが想像できました。それぞれの子どもたちに応じた題材や画材が選択されています。

○高等学校の部

出品作品が少なく残念でしたが、歯みがきによってむし歯をなくしてもらいたいという意図が、描かれている二人の配置や大きさ、色からくるイメージなどの工夫によって表現されていました。言葉で説明しなくても伝わるように単純化されたわかりやすいポスターでした。

【作品審査を終えて】

並べられた絵を見させてもらったときの第一印象は、「明るい」でした。それは、むし歯によって健康を損なうといった警鐘を鳴らすような絵よりも、目指すべき「健康な社会」「望ましい生活習慣」などのプラスイメージから子どもたちがアイデアを創り出していった絵が多かったためではないかと思います。また、先生による指導が入りすぎた絵が少なくなり、子どもたちがのびのびと自分の表現を追い求めることを大切にしていたことが伺えました。

中でも特に中学生の頑張りが今年も顕著でした。アイデアに富んだ素晴らしい作品が多く見受けられました。大きく開けた口や歯だけをクローズアップして描くのではなく、遊び心をもって、画面の中で自分が思いついたアイデアを展開することを楽しんでいるかのようです。来年度以降の作品もとても楽しみです。

最後に、子どもたちの思いや願いが込められているすばらしい作品に出会わせていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。

第41回 田川地区学校歯科保健研修会

〈田川〉 菅 義 浩

平成30年10月11日（木）に第41回田川地区学校歯科保健研修会が田川青少年文化ホールにて開催されました。筑豊、田川地区の教育長、校長、養護教諭、歯科医師等を対象に、毎年開催している歴史ある研修会です。今年度は講師に九州歯科大学クリニカルクラークシップ開発学分野教授 栗野秀慈先生をお迎えして「学校保健における歯科疾患の動向－科学的根拠に基づいた学校歯科保健活動の取り組み－」と題してご講演頂きました。

平成29年度の学校保健統計調査をもとに、近年のむし歯の減少と各地域の取り組みに関しての事案や考察を解説して頂きました。特に、一般的に指標とされる12歳児の永久歯の1人平均う歯経験歯数（DMFT）は全国平均0.82歯と過去最低であるのに対して、福岡県では全国平均よりも高い1.0歯となっています。これは、全国的にも少ない新潟県、愛知県の0.4歯と比較すると2倍以上の差があります。

福岡県は3校の歯科大学があり、また、人口当たりの歯科医師数も多く、歯科医療においては先進地域と認識されている反面、子供のむし歯の罹患状況だけを見ると、少々、疑問符の付くデータとなっています。

予防歯科の観点から、現在の福岡県の状況を考えた場合、学校保健の場を含めた地域歯科保健活動において何らかの有効な取り組み



を行っていく必要性を強く感じます。興味深い点として、ブラッシングのみでのむし歯の抑制には限界がある事がデータとして明白であるとの事でした。

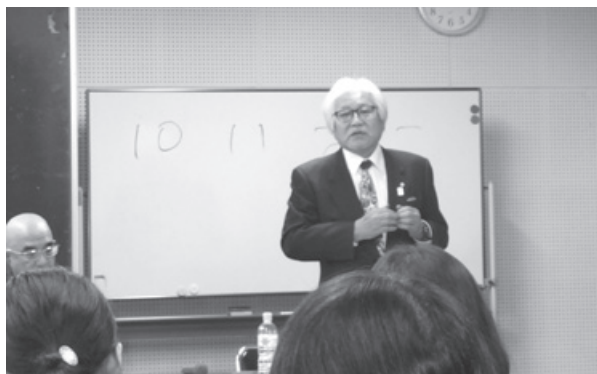
また、質疑応答では、フッ化物洗口に関して、いくつかの質問がありました。

一般の方々の心配されるフッ化物洗口による副作用や弊害等は、フッ素単体の毒性と混同されている点、また、田川地区においては以前に石灰石を採掘するセメント工場などの影響とも考えられる井戸水に由来した斑状歯など現在の水道水環境下ではほとんど影響がない点など、栗野先生から丁寧な回答を頂き、和やかな雰囲気での閉会となりました。

今後とも、田川学校歯科医会では、県学歯との連携のもと、地域の学校歯科保健のさらなる充実に貢献できればと考えております。



栗野 秀慈教授



杉原会長

筑豊教育事務所・教育委員会との協議会

〈飯塚〉後 藤 英 伸

平成30年7月27日、「筑豊教育事務所、飯塚市・嘉麻市・桂川町教育委員会と飯塚学校歯科医会との協議会」が飯塚市の「のがみプレジデントホテル」で行われた。

この協議会は教育関係者と学校歯科医会役員が学校歯科に関する諸問題についての意見交換や情報提供を行う場として、毎年この時期に開かれている。当日、飯塚学校歯科医会からは田中敏治会長以下役員一同が参加、また飯塚歯科医師会小島浩一郎会長も加わり計16名が参加した。教育関係者は教育事務所副所長、教育長、教育部長など計10名が参加された。



挨拶する田中会長

協議会では最初に田中会長が挨拶、続いて教育事務所と教育委員会の代表が挨拶をされ、学校歯科健康診断などへの協力に感謝の意を述べられるとともに児童生徒の歯・口の健康増進に向けた教育行政について語られた。

出席者紹介の後、報告として本会より①平成29年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」結果について ②平成30年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」作品の福岡県学校歯科医会への送付について ③第23回福岡県学

校歯科保健研究大会についての3項目を挙げた。

さらに協議では最近、一部のメディアに取り上げられクローズアップされた「子供の口腔崩壊」を主要テーマとして例年より多く時間をとり意見交換した。「飯塚市、嘉麻市、桂川町においては口腔崩壊の子供が存在しているか」ということや「学校健診後の受診状況を把握しているか」ということを教育委員会側に尋ね、協議した。そして一般的に「子供の口腔崩壊」の要因とされる経済的理由、親の多忙、ネグレクト、口腔ケアへの無理解などについて個人的な意見も述べてもらい検討した。

いくつかの建設的な意見は出たが、この問題は簡単に解決できるものではないため、今後とも関係者が注意を払っていくこととした。なお、20～30年前に比べるとそういう子供の数は確実に減っているとの感想を参加した歯科医のほぼ全員が持っており、関係者の努力は評価されてもいいだろう。

以上のようにこの協議会は大変意義のあるものなので今後とも継続していきたい。



協議会の様子

団体表彰とポスター審査

〈粕屋〉伊 山 慎 二

最近のトピックといえば、平成30年3月に
行われた県学歯の第107回臨時総会にて当会
が団体表彰を受けたことでしょう。日頃より
当会の活動に関心をお寄せいただき誠にあり
がとうございます。表彰理由は、毎年行っ
ている粕屋管内の公立の小、中、特別支援学校
の養護教諭との合同研修会とフッ化物洗口事
業を積極的におこなったということでした。
合同研修会については、今年度で21回目とな
ります。毎年10月に学校長あてに養護教諭の
派遣を依頼し、11月に研修会という流れでお
こなっていますが、最近是学校での養護教諭
の業務の多様化の影響からか、10年前は学校
へご案内すれば40校ちかくの養護教諭が参加
されていたようでしたが、ここ数年では20校
程度のご参加で推移しているようです。

学校歯科医と学校との連携はおおむね良好
ですが、現場での生の意見を双方から直接聞
ける機会であり、たいへん意義のあることと
考えておりますので、これからも会務として
継続していききたいところです。また、フッ化
物洗口事業については粕屋管内では久山町が
以前より九州大学と行政との主導により行わ
れている特殊性もありますが、平成28年度の
福岡県歯科医師会の学童期むし歯予防推進事

業をうけての活動は、まず公立小学校5校開
始に始まり、平成29年にはモデル地区として
1校、平成30年度にはさらにもう1校と、ま
だ7校ではありますが当会の管轄である1市
7町のうち1市5町にまたがって開始されて
いるということは今後の広がりを考えるうえ
でも明るい材料といえるでしょう。

7月28日（土）に福岡県歯科医師会館5F
大ホールにて恒例の「むし歯予防図画・ポス
ター審査会」を行いました。審査委員長も例
年通り元小学校校長の山野先生にお願いし、
厳正なる審査を行いました。出展数は小学生
294、中学生43でした。児童生徒数の減少に
よるものなのか、年々出点数が少なくなって
きておりホールの床に並べる枚数が少なく
済むのはありがたいのですが、昔の出点数の
多さを知っているものとしては寂しい気もい
たします。毎年寸評をうかがっているのです
が、今年度の特徴は次のようなものでした。

「小学生の低学年の部は、躍動感あふれる
作品が多かった。大きくのびのび描いている
作品が多かった。高学年の部は、丁寧に描
いている印象が強い。中学生の部ではうまさ
はもちろん、中間色を使ったものが特徴的で、
色彩、配色に派手さがあった」



表彰状 県学歯より第107回臨時総会にて



ポスター審査 県歯会館5階大ホールにて

糸島歯科医師会における学校歯科委員会の活動

〈糸島〉石 井 香

糸島市歯科医師会ではむし歯予防デーにちなんで、毎年6月の最初の土曜日に「歯の健康の集い」を開催しています。今年も6月2日に開催しました。この催しには糸島歯科医師会の全会員とスタッフ、糸島市健康づくり課職員、歯科衛生士会、栄養士会や他にもたくさんの方に参加、協力していただいています。毎年、糸島市民1,000人前後が来場します。この集いでは健康な歯を持った3歳児、園児の表彰、ブラッシング指導、フッ化物洗口などを行い、お口の健康の大切さを地域の住民に呼びかけています。

また、毎年、学校歯科健診が始まる前に学校歯科医ハンディノートに基づいて健診基準の会員への再確認を行います。今年は特に採針の使用についての指導を徹底いたしました。



そのほかに学校歯科委員会では毎年11月に「いいな、いい歯の日」の活動として糸島市の小学校でブラッシング指導とお口の健康についての授業を行っています。当日は委員会のメンバー及びスタッフにより歯垢の染め出し、きめ細かいブラッシング指導とパワーポイントを用いて健康な歯を守るためにどうすれば良いかなどのお話をしています。個々の会員が担当する学校でブラッシング指導や保健指導行う場合も、すぐに役立つように指導

用のツールや歯磨きの歌のCDなどを貸し出せるように揃えています。



また、糸島市学校保健会にも学校歯科委員会として参加しています。そこでは、年に2回の講演会、研修会で学校歯科に関連する内容の講演を企画します。現場の養護教員とコミュニケーションを密に取ることにより良い学校歯科医が目指せるように心がけます。本年度は7月5日に福岡歯科大学の小児歯科教授尾崎先生に「子供たちの歯科関連疾患と健康教育について」と題して講演をしていただきました。その中で口腔領域の外傷とその応急処置にも触れていただき、現場の先生方には大変好評でした。このように微力ではございますが学校歯科委員会として糸島市の子供たちの健康づくりに参加させていただいています。



平成30年度「図画・ポスターコンクール」

〈小郡三井〉金 澤 憲 孝

当会では学校歯科保健に関する普及啓発、また児童・生徒の歯科保健に対する意識の向上を目的として「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」を行った。



審査中の画家一ノ宮佳邦先生

「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」は5月25日（金）午後7時30分から小郡市総合保健福祉センター「あすてらす」で審査会を行い、3年生は図画、6年生はポスター形式で、特別支援学校を含めた小郡市と大刀洗町の小学校から寄せられた多くの力作の中から、入賞作品（特選3名、歯科医師会長賞8名、審査委員長賞12名、優秀賞12名、入選59名、佳作90名）を選出した。

今年で6回目の委員長となる一ノ宮佳邦画伯による審査からは、過去にも優秀な賞を授与した作品も出ているため、今年はどうのような作品を選出されるのか大変興味深い審査会となった。



展示会場「小郡市生涯学習センター」

随分審査に慣れてきたとはいえ多くの力作の中から選出していくのは大変そうであったが、現代美術の画伯らしく、配色のバランスやタッチの工夫などを大事に評価しながら審査されているように感じた。最終的に「歯の表情などを大胆に描き、背景の濃紺を滲ませる感じも格別であった」と評された大堰小学校3年生の作品、「原色の白を混ぜパステルカラーにしてあり良く出来た作品」と評された菊池小学校6年生の作品、「筆だけでなく指や手の一部も使って表現された独特の感じが良かった」と評された特別支援学校6年生の作品、これら3点を特選に選び、県学校歯科医会のコンクールに出展した。

なお今回の入賞作品は6月2日（土）から6月16日（土）まで小郡市生涯学習センター（小郡地区作品）と、大刀洗ドリームセンター（大刀洗地区作品）の2カ所で展示され、じっくりと鑑賞して頂けるようにディスプレイボードをレイアウトし、審査委員長のプロフィール紹介、審査風景、作品総評などのパネルを添えてわかり易さや親しみやすさにも心掛けた。地域住民の皆様に鑑賞していただき、むし歯予防や口腔ケアの大切さの啓発にも繋がったのではないかと思います。



展示会場「大刀洗ドリームセンター」

こうして毎年継続していく事で、児童達に改めて健康な歯への思いを抱いて貰える事、そしてこのような事業を通じて、学校歯科保健や口腔健康意識の向上に繋がっていけば、大変有意義であると思う。

田主丸町柴刈小学校における歯みがき指導

〈浮羽〉廣 田 恭 彦

浮羽学校歯科医会では田主丸町7校の小学校校医の委託を受けています。小学校児童の歯磨き指導については田主丸7校のうち6校において久留米市教育委員会、久留米市学校歯科医会、福岡県歯科衛生士会南支部主催で、歯磨き指導とう蝕予防に対する的確な助言を行う目的で小学2年生の学童を対象に歯磨き指導を実施しています。もう1校の柴刈小学校では校医の先生が1年生から6年生までの80名ほどの全校児童に対して、2学年ずつ歯磨き指導を行っています。学校歯科医からは食習慣、歯磨きの重要性をパネル等を使ってのわかりやすい説明と、医院の歯科衛生士、スタッフによる歯垢染色液を用いたブラッシング指導と併せて、「甘いお菓子ばかり食べるとよ」、「お菓子を食べたら歯磨きをしないと、むし歯になるちゃけんね」などの会

話ともども児童一人一人に対してやさしく、丁寧に、また歯磨きに興味を持ってもらえるよう楽しく指導しています。

乳歯と永久歯が混在している混合歯列期は、非常に歯磨きがしにくく、むし歯になり易い時期ですので、発育段階に応じた歯磨きの達成目標をたて、各学年において正しい歯磨きの方法を覚えてもらうことによって、むし歯や歯肉炎の予防に大変役立っていると考えています。



久留米学校歯科医会の活動報告

〈久留米〉古賀 浩 明

久留米学校歯科医会は昨年4月より執行部が新体制となりましたが、活動方針に何ら変わるところはなく、歯みがき指導の充実を図るのが重要だと捉えてその実現に向け努力しております。

市内全ての小学2年生を対象とした歯みがき指導は6～7月の期間に行っており、歯科衛生士会の皆様の頑張りのおかげもあって、市の委託事業としてもすっかり軌道に乗り、小学校の先生方にも好評を得ています。

高学年（5年生）に対する歯みがき指導は希望される学校に対して10月位から実施していますが、思春期に差し掛かった年齢を考慮すると動機づけとしては絶好の時期と考えられるため、希望校が広がる事を期待しています。

今年も6月に2度目となる久留米シティプラザの一角をお借りしての「歯の健康フェスタ」が開催されました。

以前の会場であった大型ショッピングモールからの移行であり、多少来場者数の心配もありましたが、昨年に続き多くの方々に来場して頂き、お口の健康への意識の高まりを実感する充実ぶりでした。

10月には次年に小学校へ入学予定の児童を対象とした就学時健診（市の委託事業）を行っております。

お父さんお母さんによる仕上げ磨きに始まり、さまざまな情報が簡単に入手できるようになった現在、お口の健康に対する意識の高まりの成果が大きく表れ、若い人達の口腔内環境は格段に良くなってきました。私達歯科医も健診や歯みがき指導を通して、お口の健康がいかに大事なのかを理解、認識してもらい、歯科医療機関は治療を行うところではなく、チェックと予防を行うところだという認識を共有する時代だと思います。



歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール表彰式

〈大川三瀨〉田 中 勝 馬



表彰式会場

歯の衛生週間の催しとして「歯・口の健康に関する図画・ポスター展表彰式」を6月9日（土）に大川文化センターで開催しました。当会の各地区の小学校から3,566点と前年度より400点も多い出品があり、校内選定および池末満画伯による審査をへて、入選作品84点が選ばれました。5月19日に行われた審査会は例年以上の力作ぞろいのため困難を極め、規定の入賞者数に絞り込むのに各学年とも苦労を強いられ、かなりの時間オーバーでなんとか決定されました。入賞を逃した作品にも多数のすばらしい作品があり、いつも苦しい決断を下していただいている池末画伯の悩まれる時間が毎年長くなっているようです。その後、入選作は大川文化センターのロビーに会員の手で展示されました。



表彰式賞状授与

表彰式は例年通り大川文化センターでとりおこなわれました。式典での講評は各学年の特別賞受賞作品だけなので、式典前に行う入賞作品の池末画伯の展示場での個人講評は、作品の前で直接お話が聴けるので毎年希望者が殺到しています。今年も受賞者、その親御さんが熱心にお話に耳を傾けておられました。画伯の適切なアドバイスを受け、来年度はまたすばらしい作品が出品されることでしょう。

式典は堤会長の挨拶、来賓の倉重大川市長の祝辞のあと講評が行われ、池末画伯の熱のこもった解説で受賞者、父兄も聴き入っておられました。賞状、賞品を受け取った受賞者たちの笑顔、それを撮影される父兄の笑顔もうれしそうでした。

参加者は194名を数え、用意した父兄席が足りなくなるほどで、これらの方がこれを契機に口腔の衛生に関心を持ってもらい、むし歯の本数減少等の成果があらわれるよう期待してこれからもこの催しを充実したものにしていかねばならないと感じました。また、県提出となった木佐木小六年生の松永玲さんの作品が特別賞を受賞しました。このことから年々レベルの高い作品が出てきていると実感させられます。



表彰式賞状授与

小児期からの噛み合わせ育成

〈門司〉牛 島 正 雄

7月5日（木）午後2時から大里柳市民センターで、門司区内の小・中学校から校長2名、養護教諭24名、歯科医師会から7名が参加して第21回校長・養護教諭および学校歯科医との研修・懇談会が開催されました。

出畑副会長の開会の辞、村岡会長の挨拶に続いて研修会が始まり「未来を担う子供達のためにより良い口腔育成のために」という演題で、九州歯科大学健康増進学講座口腔機能発達学分野教授の牧憲司先生による講演が行われました。講演内容は、日本の家庭の貧困化、歯や顎の成長発育、う蝕予防、乱杭歯の予測・対応、口腔習癖、歯の萌出障害、筋機能訓練という学校歯科に関連深いトピックスについてお話ししていただきました。特に、『噛み合わせ』、『歯並び』についての話を聞きたいとの校長・養護教諭からの希望もあり、

『噛み合わせ』、『歯並び』について重点的に説明があり、特に乱杭歯の予測・対応について詳しく話して頂きました。叢生は、昭和44年頃は13.4%であるのに対し現在は30%前後にまで発現率が上昇しているとの事で、特に乳歯の歯間空隙量が3mm以下であれば叢生が予測される為、出来るだけ早期に保護者に伝え、乳歯のデイスキング、拡大床の使用、

口腔習癖改善のトレーニング、口腔筋機能訓練などの治療を総合的に行い対応して行く必要があるとお話されていました。また、家庭の貧困化も近年著しく上昇しており、2017年の厚生労働省の発表では貧困率14%と実に7名のうち1名が貧困家庭であり、先進国の中ではワースト4であると説明されていました。貧困の家庭では、栄養不良や親子間のコミュニケーション不足に起因して子供の口腔内環境が悪化する傾向にあり、口の中の環境が生活環境を反映していると言っても過言ではなく、虐待もここ14年で7.6倍増加しており、その内容も身体的虐待から心理的虐待（大声で怒鳴る、無視、兄弟間の差別等）に推移しており、学校の先生は口腔内環境にも着目し、虐待の早期発見・報告をすることの重要性をお話しされていました。

続いて質疑応答を行い、最後に加塩学校歯科担当理事による閉会の辞をもって盛会のうちに終了しました。牧先生には最新の知見も交えながら、幅広い内容を解りやすく説明していただき研修会参加者の小児期からの噛み合わせ育成に関する理解をより深めることができたと思います。



牧 憲司教授



遠賀中間歯科医師会における学校歯科保健活動について

〈遠賀中間〉日 高 里 史

遠賀中間歯科医師会では、啓発事業として、8月7日に「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」「歯・口の健康啓発標語コンクール」の審査を行い、それぞれ一点ずつ福岡県学校歯科医会のコンクールに提出しました。

学童期むし歯予防推進事業における県下6校のモデル事業の一つとして、昨年度9月より遠賀中間郡市区内の広渡小学校において、フッ化物洗口が始まりました。県歯では地域保健部の所管ですが当会は学校歯科が担当しています。昨年度下半期で計17回、今年度は年間27回のフッ化物洗口を行う予定です。

学校歯科保健事業として、平成11年より管内の一市四町の小・中学校を対象に学校歯科

指導を行っています。毎年、10校、300人程度指導しています。また岡垣町においては、平成16年度から歯肉炎予防・改善指導を行っています。平成21年度からは町内5つの小学校の5年生を対象とし、2回の歯みがき実習を含む3回の指導を行っています。6ヶ月後には半数以上の児童に歯肉炎の改善が認められました。

平成30年度も10月より前年同様、町内小学校全5校の5年生を対象に指導を始めました。

これを機会に、将来にわたり子供達が口腔内への関心をよりいっそう高めてもらえればと思います。



学校歯科指導



岡垣町歯肉炎予防・改善事業



分注瓶から紙コップへ



フッ化物洗口中

表彰おめでとうございます

◎秋の叙勲・瑞宝双光章

日 時 平成30年11月12日（月）
場 所 東京国際フォーラム



倉田 誠一
(久留米)

◎文部科学大臣表彰

日 時 平成30年10月25日（木）
平成30年度全国学校保健・安全研究大会



草野 鴻志
(大牟田)

◎福岡県学校保健功労者表彰

日 時 平成30年11月21日（水）
場 所 福岡リーセントホテル 舞鶴の間



一之瀬 達也
(京 都)



井上 龍彦
(京 都)



相良 立身
(田 川)



中村 重雄
(飯 塚)



沖 博文
(飯 塚)



永末 尚敏
(飯 塚)



田中 陽一
(飯 塚)



佐藤 壽彦
(飯 塚)



中園 陽一
(直 方)



南里 嶽仁
(粕 屋)



吉川 友國
(粕 屋)



半田 正
(糸 島)



山下 尚也
(筑 紫)



榎坂 祐一
(筑 紫)



今井 富実生
(朝 倉)



永尾 禮二
(久 留 米)



佐藤 邦彦
(久 留 米)



近藤 元司
(八女筑後)



大石 昌弘
(八女筑後)



柴田 毅
(八女筑後)



松崎 省三
(大川三潁)



松永 光則
(小川三潁)



藤田 明弘
(柳川山門)



浅尾 博己
(小 倉)



上村 耕基
(八 幡)



東川 和生
(八 幡)



和田 正之
(八 幡)



日高 里史
(遠賀中間)

◎第57回全日本学校歯科保健優良校表彰

筑 紫 那珂川市立安德南小学校（奨励賞）
小 倉 北九州市立志井小学校（日本歯科医師会会長賞）

事業報告

研究・研修事業

(1) 第82回全国学校歯科保健研究大会

日時：平成30年12月6日（木）・7日（金）13：00～

場所：沖縄コンベンションセンター

出席者：杉原会長・三箇副会長

平瀬専務理事・一之瀬理事

主 題：「生き抜く力」をはぐくむ歯・口の健康づくり
の展開を目指して
～学校歯科保健活動のもつ教育力を考える～

実践活動報告①

「小学校における食育の実践」
～児童の実態と栄養教諭の取り組み～
春日市立春日西小学校 栄養教諭 深 田 恭 代

実践活動報告②

「自分で知り、自分で管理する力強い歯」
～生徒保健委員会の取り組み～
福岡県立八女高等学校 養護教諭 井 手 紀 美
養護助教諭 萩 野 和 代
生徒保健委員会

(2) 第23回福岡県学校歯科保健研究大会

日時：平成30年11月17日（土）13：00～17：00

場所：福岡県歯科医師会館 5階 大ホール

参加者：327名

主 題：「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して」
～自らの健康行動につながる効果的な
歯科保健活動～

基調講演

「統計調査からわかること、その活用」
一般社団法人 福岡県学校歯科医会 専務理事 平 瀬 久 義

特別講演

「学校歯科保健における健康管理としての健康診断
の位置づけの変化」
九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野 教授 山 下 喜 久

会務報告

各種会議・会員現況報告

平成29年度

12月9日	第5回学術委員会	28日	第1回90周年記念誌臨時委員会
9日	第4回普及指導委員会	28日	第1回制度調査委員会
9日	第4回制度調査委員会	5月12日	第1回定時監査会
9日	第4回広報委員会	19日	第2回常務理事会
16日	第7回常務理事会	19日	第2回学術委員会
16日	第8回理事会	26日	第2回理事会
26日	第1回普及指導委員会	26日	平成30年度定時総会（第108回） 正・副議長打合せ会
1月13日	第8回常務理事会	6月2日	第3回学術委員会
13日	第5回制度調査委員会	2日	第1回普及指導委員会
13日	第2回定時監査会	2日	第2回広報小委員会
20日	第5回普及指導委員会	16日	平成30年度定時総会（第108回）
27日	第9回理事会	23日	第3回理事会
2月3日	第6回学術委員会	7月14日	第3回常務理事会
10日	第10回理事会	21日	第4回学術委員会
10日	平成29年度臨時総会（第107回） 正・副議長打合せ会	21日	第2回広報委員会
14日	第1回90周年記念誌臨時委員会	28日	第4回理事会
17日	第6回学術委員会	28日	第3回広報小委員会
17日	第6回制度調査委員会	8月4日	第2回90周年記念誌臨時委員会
17日	第4回広報小委員会	18日	第2回普及指導委員会
3月3日	第9回理事会	9月1日	第3回普及指導委員会
10日	第11回理事会	1日	第2回制度調査委員会
17日	平成29年度臨時総会（第107回）	8日	図画・ポスター審査会
		8日	第5回理事会
		15日	加盟団体長会
		22日	第4回広報小委員会
		10月7日	第6回広報小委員会
		13日	第4回普及指導委員会
		20日	第6回理事会
		27日	第5回学術委員会
		27日	第6回広報小委員会
4月7日	第1回学術委員会	11月10日	第4回常務理事会
7日	第1回広報委員会	10日	第7回広報小委員会
14日	第1回常務理事会	17日	第23回福岡県学校歯科保健研究大会
21日	第1回理事会	24日	第7回理事会
21日	第1回広報小委員会	24日	第3回制度調査委員会

平成30年度

会員現況報告（平成30年12月1日現在）

加盟団体名	会員数	加盟団体名	会員数
京 都	45名	久 留 米	55名
豊 前 築 上	12	八 女 筑 後	55
田 川	40	大 川 三 瀬	24
直 方	41	柳 川 山 門	34
飯 塚	62	大 牟 田	43
宗 像	59	門 司	30
粕 屋	27	小 倉	34
糸 島	8	戸 畑	5
筑 紫	84	若 松	5
朝 倉	27	八 幡	81
小 郡 三 井	25	遠 賀 中 間	37
浮 羽	19	合 計	852

東地区200名、西地区178名、南地区282名、北地区192名

◎公 告

○平成30年度 臨時総会（第109回）

日 時 平成31年 3月16日（土）午後3時00分

場 所 福岡県歯科医師会館 5階 大ホール

◎予 告

●基礎研修会

日 時 平成31年 2月9日（土）午後2時50分～

場 所 福岡県歯科医師会館 5階 視聴覚教室

物 故 会 員

自 平成30年11月1日 至 平成30年12月31日

ご冥福をお祈り致します

柴 田 治 俊 67才（飯 塚）

倉 田 誠 一 88才（久 留 米）

福岡県学校歯科医会 ホームページ

<http://www.fk-gakusi.jp>



一般社団法人 福岡県学校歯科医会
Fukuoka Association of School Dentists

歯・口の健康教室 学校保健 Q&A Link 会 報 News Letter 歯と口の健康週間 歯・口腔の健康診断 集計

子どもたちの口腔の健康を守るために！

TOPページ 歯科学歯の経歴・構成 事業活動 大会・研究会 学校歯科健康診断

topics

会報・News Letterページに「News letter Vol.2」を掲載しました	2017.11.13NEW!
歯・口の外傷及びマウスガード講習会を開催します	2017.11.13NEW!
事業活動に会報・事業一覧ページを更新しました	2017.10.02
「平成29年度歯・口の健康に関する図画ポスターコンクール」ならびに歯・口の健康啓発標語コンクール」の表彰作品を掲載しました	2017.09.20
第22回福岡県学校歯科保健研究大会を開催します	2017.07.19
平成29年度事業計画について掲載しました	2017.04.01
平成29年度行事予定について掲載しました	2017.04.01
福岡県公立高等学校歯・口の健康診断結果について集計報告します	2017.03.21

ポスター・標語コンクール

編 集 後 記

新年明けましておめでとうございます。平成最後の正月を迎えました。昨年は災害の年でした。ブロック塀倒壊のあった大阪北部地震。台風7号と活発な梅雨前線停滞による200人以上の死者を出した西日本豪雨。この時は西日本子ども歯科保健・健康会議の開催が心配された。前回も九州北部豪雨後の開催であった。今年は影響が出ないことを祈るばかりである。更に連日の猛暑の為、熱中症で搬送された患者が過去最高となった。埼玉県熊谷市では国内観測史上最高の41.1℃を記録した。日本に限らず世界的な異常猛暑だったようだ。関西国際空港の滑走路水没、タンカーの連絡橋衝突があった台風21号。北海道初の震度7を観測した北海道胆振東部地震。道内全域停電を起こし、山肌があらわになった写真が今でも思い浮かぶ。熊本地震から2年以上経つがいまだに多くの人が避難生活をされている。なにか災害が起きないような打開策はないかと考えるが「今年こそ平穏でありますように。」と、今も昔も神様に祈ることしか出来ないようだ。これだけ災害が続くと各種団体は、とりあえず見舞金の予算を計上しておいたほうが良さそうだ。

広報委員会 委員長 安田 誠



若戸大橋

県学歯会報

第 92 号

毎年1回発行

発行人 杉原 瑛治

発行所 〒810-0041 福岡市中央区大名1丁目12-43
一般社団法人 福岡県学校歯科医会
TEL 092-714-4627 FAX 092-714-7599
E-mail k-gakusi@alpha.ocn.ne.jp
U R L <http://www.fk-gakusi.jp>

印刷所 〒812-0065 福岡市東区二又瀬新町12-29
株大里印刷センター
TEL 092-611-3118 FAX 092-629-2715